

虚子記念文学館投句特選句・令和八年六月

稲畑廣太郎 選

大いなる賞を頂き風薫る

兵庫 藤井啓子

滑りゆく闇のその先初蛩

岡山 辻田詔子

父の日や何時もの暮色今日も又

兵庫 道中義臣

シャンソンに酔ふ深き闇明易し

兵庫 辻 桂湖

山椒魚水音山気を友として

兵庫 金田八江子

五月雨や滑り出したるペンの先

兵庫 高倉千都

アイリスの蕾の無口なる素振り

兵庫 村原美可

寝ずの番ブンと声出す冷蔵庫

埼玉 小田毬藻

黒南風や光と雲の線の帯

兵庫 吉田知子

新緑に染まるグラント遠距離走

兵庫 藤丸慎士

（青少年）

入選句・令和八年六月

万緑にギプス濡らして変声期	大阪	押見げばげば	野馬追や旗なびかせて鬨ぎあふ	奈良	堀ノ内和夫
布かぶる果物籠と聞く驟雨	千葉	鹿野川小舟	一匹の蠅が私をもてあそぶ	三重	前出美千子
逃げ遅れたる亀もゐて溝浚へ	京都	前悦子	迷ひ込む蠅一匹の捕獲劇	奈良	堀田建夫
溝浚へ済めばいざこざ消えてをり	大阪	須知香代子	地を這うて夏蝶昨夜の雨を吸ふ	三重	池本準一
十葉や境界線を曖昧に	大阪	河辺さち子	アイリスの蕾をほどく神の風	奈良	堀田ますみ
さくらんぼ見つめ自然に笑みこぼる	兵庫	池田文子	君逃げる我逃したり蠅の奴	三重	前出公子
姫君のおしやべりのごと薔薇の園	兵庫	吉村玲子	六甲の紫陽花海と山の色	愛知	中野ひろみ
八ツ切りの今朝のトマトにかたき角	千葉	志村肇	女学生の内緒話やアマリリス	奈良	山口廣世
ぷつぷつと肺のかたちの山眠る	熊本	夏風かをる	明易や慣れぬ船旅のベッド	大阪	米澤悦子
奥津城の滴りの音果断無く	香川	藤田敦雄	芦屋浜梅雨入りなるも風のあり	兵庫	谷本逸歩
亀の子と一緒に育ち六年生	大阪	多田羅紀子	梅雨入や恋うてをりけり蝦夷の旅	兵庫	森岡喜恵子
朝戸繰る山の匂ひや緑濃き	兵庫	平田恵	かたつぶりお菓子の缶に詰めにけり	大阪	白石翠
未央柳蕊整ひて雨上がる	岡山	伴明子	邸の庭緑溢れて瑞瑞し	大阪	谷本房子
入梅や恐る恐るに漱石展	岡山	奥山登志行	寝転ぶも跳ねつ返りも植田かな	大阪	若林友子
軒しづく不協和音となる梅雨入	兵庫	前田容宏	背丈程の時計が一つ夏館	大阪	立入宮子
万緑の風に几帳の翻る	兵庫	足立朱麻	夏空へ朱鷺一直に放たれり	石川	白根寿子
十葉は園の脇役石の黙	大阪	奥野千草	豪州の蠅はうるさくまとひくる	大阪	田邊育子
伊賀も奥山椒魚の鑑賞会	三重	松村咲子	合歓の花揺れて虚子館はなやげる	大阪	塙月夜
築百年お茶一服や夏座敷	三重	吉川博子	ひと掃きに蛍の点る竹箒	兵庫	小柴智子
生き生きと黄梅雨空を押し上ぐる庭	香川	三好ようこ	襲ひ来るテラノザウルス夏の雲	兵庫	上岡あきら
山椒魚から揚げにして酒の友	奈良	芳林淳子	風に溶け日差しに溶けて合歓の花	兵庫	黒田千賀子
先導を賜ふ俳磚風薫る	大阪	林曜子	斑鳩の昔へ茅花流しかな	兵庫	伊東伸子
鶴塚橋渡れば茅花流しかな	兵庫	細田清子	水動く山椒魚の顔ばかり	兵庫	西村みどり
自販機も妖怪めいて枯野の夜	富山	三河三可	空堀は風棲むところ糸とんぼ	大阪	杉山千恵子
			袋掛青き命を透かしけり	大阪	河村久美子

斑鳩の青葉の波や文化の香	兵庫	川村ひろみ	梅雨入り降らねばならぬやうに降る	石川	辰巳葉流
天地いま不協和音や梅雨に入る	兵庫	山之口倫子	ラッシュ時のメトロ乗換へなほ暑し	大阪	ふじもと言果
蹲踞に浮かびし二輪皐月紅	兵庫	小林昌子	老鶯の重ね鳴きたり納棺日	茨城	杉山 満
嫁して草引くにも慣れ五十年	大阪	北上美佐子	掠めゆく虹なりし陽の濃きかげり	岐阜	丸山美樹
みな前へ前へ行きたし競馬	兵庫	宮地若木	田植機を戦隊カーと孫眺ねる	大阪	水井良柚
撒き散らす虫除けスプレー草を引く	兵庫	宮本露子	ホ誌を去り師の偉大知る杜鵑	京都	杉森大介
緑蔭に思惟深くして微笑仏	兵庫	高野さち	素足などもつてのほかや砂丘の暑	鳥取	前田 千
塩飴ははや三個目よ旱梅雨	愛知	海神瑠珂	せせらぎと闇のはざまを鳴く河鹿	大阪	棕本望生
抱卵の鳥身じろがず青葉蔭	石川	杉村佳津子	客人の肩へふたつの蛍の火	三重	瀬川琴女
オリーブの花と真白き風車の帆	兵庫	藤丸千香子	花吹雪けぶる山辺に杖の影	東京	清水あき
手術前何度も目覚め明易し	大阪	西尾浩子	短夜を深夜映画の誘惑す	兵庫	高橋純子
俳磚に届く花合歓明かりかな	兵庫	奥田好子	軽鳧の親子を川に見て館に	兵庫	辻田あづき
短夜や玻璃につまづく風の音	兵庫	中村恵美	柏手を静かに田植始まりぬ	兵庫	天下明太郎
短夜の里の仕事は多かりし	京都	木村直子	孫生まる芒種の雨に知らせあり	兵庫	松本 敬
幻想は薄暑の中を駆け巡る	兵庫	河野ひろみ	摩尼殿にいにしへの傷梅雨深し	兵庫	岩永静代
六月の山気を濡らす風の音	兵庫	涌羅由美	雨あがる樹雨のしづく光る道	埼玉	吉田春代
無になれる至福の時や籐寝椅子	兵庫	深尾真理子	一揖の句碑にふれゆく青葉風	鳥取	棕 誠一朗
戴冠や泰山木は仰ぐ花	岡山	石井宏幸	黒南風に騒ぎだしたる森の木々	鳥取	棕 則子
五月闇ガス燈淡く滲む宵	兵庫	槌橋眞美	梅雨寒し鯉悠々と泥の川	兵庫	高市敦之
合歓吹いて館の思ひ出とめどなく	兵庫	玉手のり子	窓すべて抜かれし団地かたつむり	兵庫	杉浦萌芽
馬よりも騎手の面相競べ馬	徳島	多田まさ子	昨夜雨を空に返して風薫る	兵庫	大西美知子
一弁の重さを見せぬ花菖蒲	京都	山崎貴子	薫風やポプラ並木を通り抜け	兵庫	河合美恵子
梅雨蝶の風より零れ低く舞ふ	香川	三宅久美子	国境は峠の標風薫る	兵庫	山崎渺美
紫陽花や同行あれば近き距離	兵庫	岸川佐江	父の日や父帰り来る靴の音	大阪	綿谷千世子
ひと嵐去りてついたりといふことも	兵庫	永沢達明	風薫る右折左折の虚子館へ	兵庫	西尾とし子

シュートまたゴールネットを殴り夏至	兵庫	風待フテ	新聞の麦秋恋ひし祖母の里	神奈川	斉藤苑子
如意輪の貌を支へる指涼し	京都	朝夕感じ	ひもときし先師のことば明易し	神奈川	進藤剛至
四葩咲く数珠にも似たる庭の雨	大阪	富永武司			
どこまでも大魚に曳かれ星月夜	熊本	夏風かをる			
足音の響き冷たく梅雨の夜	大阪	深森佳鶴			
忘れたき人の思ひ出濃紫陽花	大阪	深森明鶴			
梅雨空や通学電車に参考書	千葉	野末トヨ			
草を引きつつも俳句のことばかり	兵庫	岩水ひとみ			
四阿に軽き雨音手毬花	大阪	森重深鶴			
桜桃忌青葉若葉の風の道	兵庫	福田光博			
白寿万歳祭壇の白き百合	兵庫	福田淳子			
十薬のとどむる雨の余韻かな	兵庫	伊集院秀樹			
夏安居や老いた典座の襷掛け	滋賀	近江堇花			
丸刈りに容赦のなき蚊まとはりて	兵庫	春の新々			
石段を海へと猛る神輿かな	和歌山	中島紀生			
みちのくの空が恋ひしやさくらんぼ	兵庫	恵島祥一朗			
病室のまばゆみ百合に窓を開け	兵庫	恵島京子			
白む夜にゴールの熱気暮の夏	神奈川	小林 心			
明易や茶会の水を山深く	香川	葛原由起			
ひと籠は摘みて帰らむ柿若葉	奈良	豚々舎休庵			
荒梅雨や文化ホールに能舞台	兵庫	太平楽太郎			
ビール飲む醤油の皿にエビのひげ	静岡	いたまき芯			
広重の空の青さにソーダ水	兵庫	キートスばんじょうし			
軽暖の神戸に白き飛鳥Ⅲ	兵庫	矢車星風			
八つ橋に添ひゐるやうに花菖蒲	神奈川	金子三奈乃			